

第3章 基本理念と施策の方向性

1 基本理念

「食ではぐくむ体も心も健康なまち いちかわ」

すべての市民が食に関する理解を深め、生涯を通して健全な食生活を実践することにより、誰もが心身ともに健康で生き活きと暮らすことができるまちを目指します。

2 食育推進スローガン

食育の環(わ)を広げよう！ ～つなぐ・広がる いちかわの食育～

市民一人ひとりが食育の取組を実践するとともに、家庭、保育園・学校、地域が連携し、食育関係者及び関係機関が支え、一体になって推進することで、食育の環(わ)を広げ次世代につなげていきます。

3 基本目標

- 基本目標 1. 健康な体づくりと豊かな心を育てる
- 基本目標 2. 食文化継承と食の循環・環境を理解し実践する
- 基本目標 3. 食育推進運動の展開と推進体制の充実を図る

4 施策の展開における視点

①食で健康をつくる

栄養バランスに配慮した食事や朝食の大切さ等を知り、望ましい食習慣を身につけ、適切な食生活を送ることで健康な体をつくる。

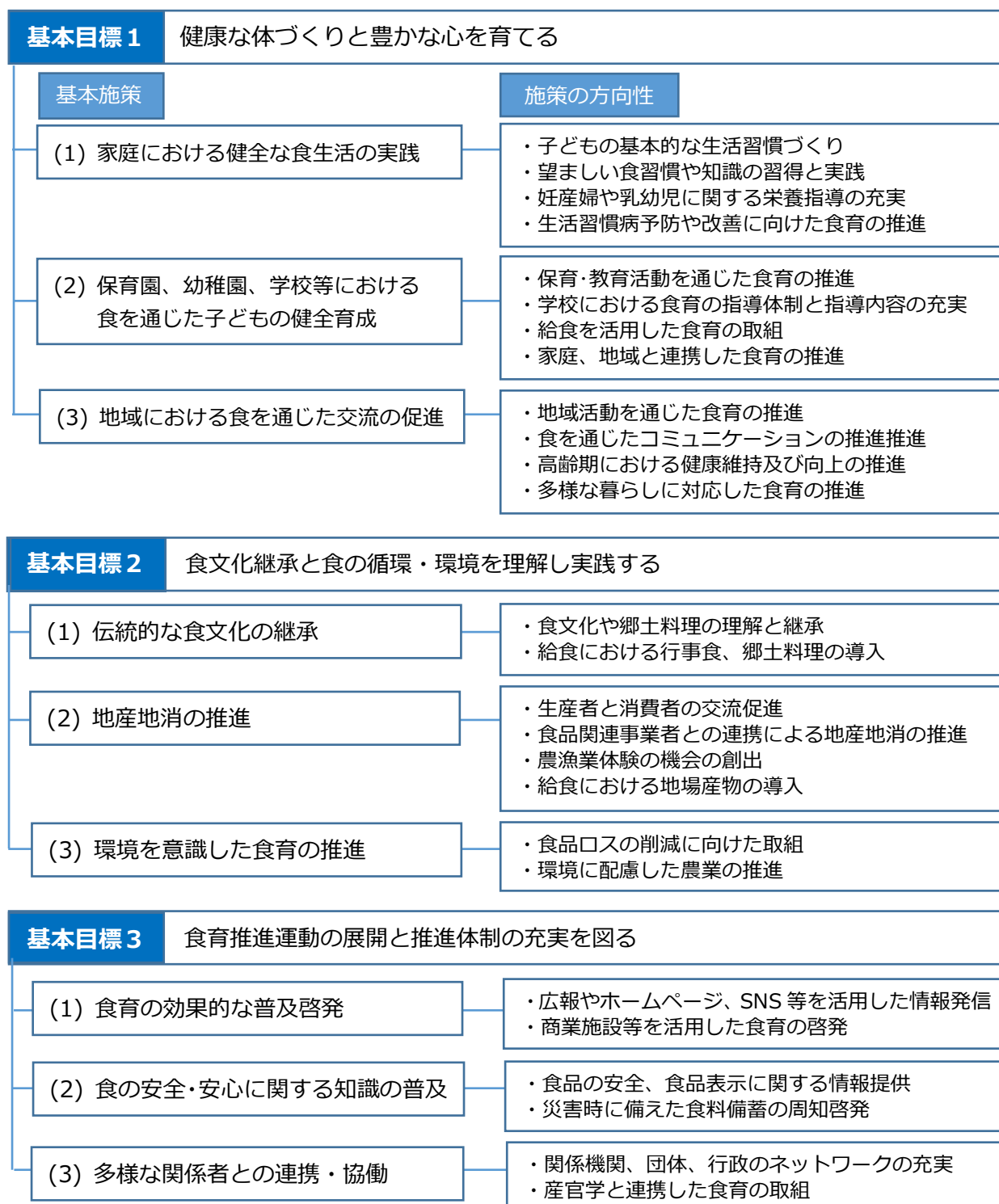
②食を楽しむ

家族や友人と一緒に食事をする、食事のマナーを身につける、伝統的な食文化や地域の郷土料理を次世代に継承する取組を通して、食を楽しむ。

③食を大切にする

地産地消や食の流通・循環を学び、食が自然の恩恵の上に成り立ち、多くの人に支えられていることに感謝し、食べ物や環境を大切にする気持ちを育む。

5 施策の体系



6 第4次計画の数値目標

第4次計画の数値目標は、第3次計画の評価や課題を踏まえながら、本市の食育を効果的に推進するため、今後5年間における数値目標を次のとおりとし、取り組みの成果や達成状況を確認する指標とします。

| No. | 指標項目 | 現状値 (R4年度) | 目標値 (R9年度) |
|-----|---|---------------|---------------|
| 1 | 食育に関心のある人の割合 | 82.9% ※1 | 90%以上 |
| 2 | 朝食を欠食する市民の割合 | 小学生 | 4.2% ※2 |
| | | 中学生 | 9.3% ※2 |
| | | 20歳～30歳代 | 30.1% ※3 |
| 3 | 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数 | 小学5年生 | 週12.8回 ※3 |
| | | 中学2年生 | 週10.6回 ※3 |
| 4 | 主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上、ほとんど毎日食べている市民の割合 | 市民全体 | 61.7% ※1 |
| | | 20歳～30歳代 | 38.6% ※1 |
| | | 30歳～50歳代男性 | 57.9% ※1 |
| 5 | 1日2食以上野菜料理を食べる人の割合 | 59.9% ※1 | 70%以上 |
| 6 | 生活習慣病予防や健康づくりのために食生活や運動に気をつけ適正体重の維持を意識している市民の割合 | 20歳～30歳代女性 | 56.8% ※1 |
| | | 30歳～50歳代男性 | 58.6% ※1 |
| 7 | ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合 | 47.8% ※1 | 55%以上 |
| 8 | 塩分のとりすぎに気をつけている市民の割合 | 30歳～50歳代男性 | 61.2% ※1 |
| 9 | 栄養教諭等による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数の増加 | — | 月12回以上 |
| | 学校給食における地場産物を使用する割合（金額ベース）の維持・向上 | — | 現状値より向上 |
| 10 | 直近1年以内に農業体験に参加したことがある市民の割合 | 39.8% ※1 | 55%以上 |
| 11 | 市川市で水産物がとれることを知っている市民の割合 | — | 現状値より向上 |
| 12 | 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 | 80.1% ※1 | 85%以上 |
| 13 | 日本の食文化や郷土料理、家庭で受け継がれてきた料理や作法を継承し、伝えている市民の割合 | — | 伝えている50%以上 |
| 14 | 食品ロス削減のために必要な分だけ購入、調理している市民の割合 | — | 現状値より向上 |

(現状値が未記載の項目は、今後調査を行います)

※1 現況：R4eモニター制度による食育アンケート調査

※2 現況：R3市川市児童生徒のライフスタイル実態調査(小中学生 朝食欠食：週3～4日以上欠食者集計)

※3 現況：健康いちかわ21 R3市民の健康状態アンケート調査